



佛事の常識・非常識



Q:散骨って海や山に遺骨をまけばいいのですか？ A:いいえ、そうではありません。

最近、よく見聞きする散骨がテーマです。海や山に遺骨をまいてしまって、それでおしまい。そんな風に後腐れなく去りたいと考える方もいらっしゃる昨今ですが、そんなに簡単ではありません。まず散骨は、遺骨を粉々に砕く必要があります。かけらのまま撒くのは、墓地埋葬法で禁じられています。白骨がいろんなところで見つかったら、事件と間違われて大変ですから。さらに遺骨をまく場所についても、限られます。瀬戸内海のような、国立公園の中では、原則禁止されています。太平洋か日本海の沖合まで出かける必要があります。最後は、残った遺族に対するケアが必要です。自分の人生は自分だけの物でなく、半分は残された家族や周囲の人々のものなので、周囲が納得できるようにしてあげるのが大切です。なので散骨したとしても、遺骨の一部を分骨して保管する遺族も多いそうです。十分な話し合いをして、誰もが幸せになるよう配慮してあげて欲しいものです。

寺ともさんごぼれ話 この度のごぼれ話は、去る3月9日に丸亀町3町ドームとレッツホールで行った東日本大震災3回忌法要・イベントの報告です。このコーナーでも1月号と2月号に取り上げさせて頂きましたが、当日は何人もの寺ともさんをご参加下さいまして、誠にありがとうございました。この法要・イベントは、徳成寺の所属する同じ東本願寺系の寺院の組合活動の一環です。大震災から丸2年が経過し、当初の記憶が徐々に風化していく中で、高松市民と共に犠牲者を悼み被災地に思いを馳せて、決して他人事にはしないために企画いたしました。当日は大勢の皆さんが、岩手県宮古の特産品などを買い、被災地支援をして下さいました。翌10日の朝日新聞香川版には「香川は地震も津波もなかったから、つい震災のことを忘れがちだけど、募金など自分のできる範囲で貢献していきたいですね」と市内の主婦の声が掲載されました。震災当日11日夕方のRSK イブニングニュースで、「震災の記憶が段々薄らいでいくことが結果として被災者や犠牲者を孤立させることになるので、もう一回思い起こしてほしいと思います」と、組合を代表して幹事役の私のインタビューが放送されました。

名前：みーちゃん
性別：♀
お年：16歳
種類：キジトラ
好物：魚のすり身など
苦手：来客者
住所：米谷さん宅(高松市)
性格：おとなしい

ご自慢のペットちゃん



ペットちゃんを募集しています。

エピソード：みーちゃんは、捨て猫でした。手のひらに乗るような小ささだったそうです。その当時、動物虐待を受けたような、脚の筋を刃物で切られたような傷を負っていました。安楽死させようと思って動物病院に連れて行ったところ、適切な処置をして助かったそうです。心の傷からか、数年間は家族にも身体を触らせませんでした。それが今では、魚のすり身など、柔らかい物しか食べられないほど年を取り、幸せに過ごしています。どうかお達者で。

NHK 高松ゆう6かがわニュース「とれとれマイビデオ」



2/22午後6時45分放送

2月の寺とも「豆まきと太巻き作り」が、NHK 高松ゆう6かがわニュース「とれとれマイビデオ」に取り上げられました。「あ～、大きな恵方巻きを作りましたね～。う～ん、おいしそう」というコメントをアナウンサーから頂きました。

おまけ

娘が所属する一高合唱部の演奏とお寺で聴くことができました。澄みきった美しい歌声が本堂に響きわたった瞬間も清々しい気持ちになりました。ありがとうございました。

◎かわら版不要の方は恐れ入りますが087-821-6348へご連絡を。